

第42回草の根歯科勉強会

# 口腔ケアステーションを立ち上げよう!

**歯科衛生士単独訪問の道を拓く**

(財)在宅医療助成 勇美記念財団から助成を受けた市民講座です

本日のプログラム

1:30~1:40 挨拶

1:40~2:40 講演

地域に根ざした「ロケアを含む食支援」

金子みどり先生

2:40~3:40 講演

口腔看護ステーション「まほろば」の取り組み

渡邊由紀子先生

3:40~4:00 質疑・意見交換



金子みどり先生(歯科衛生士)

京都まちづくり口元気塾



渡邊由紀子先生(歯科衛生士)

元気なお口研究会まほろば

在宅医療助成 勇美記念財団

助成市民講座

「口腔ケアステーションを立ち上げよう」 を終えて

草の根歯科研究会 代表 岡田弥生

8月5日の市民講座では、在宅訪問で食支援に関わる歯科衛生士の講演を中心に行った。改めて「食べることは生きること」であると、口から食べることの大切さを感じた。

参加者は、歯科衛生士が多かったが、他に歯科医師、歯科技工士、主婦、会社員など、草の根歯科研究会ならではの多彩なメンバーであった。在宅介護の経験者や要介護の家族がいるなど、在宅医療については関心が深い方が多く、実り多い勉強会であった。

講師のお話は口腔ケアと食支援について、専門的な内容が多かったが、誰にとっても、口から食べることは切実な問題なので、自分の問題として、口の機能を学ぶことができた。また、このことが歯科医師、歯科衛生士、医師、看護師にとっても、必ずしも十分に理解されているとはいえない状況であることも再確認できた。

在宅医療は、要介護者ご本人を中心とした、ご家族や多種の専門職のチームワークが大切であり、より適切な食支援で生活は一変し、QOLが向上する。講師の長年にわたる経験から、多くの事例を示していただいた。しかしながら、一般の方にはもとより、歯科関係者も、まだまだ口腔ケアステーションの必要性を感じ、実際に立ち上げるまでの段階に至っていない。

最期まで口から食べること、満足できる食支援のために、歯科衛生士ももっともっと勉強する必要があるが、口腔ケアのニーズの掘り起こしも必要であると感じた。

今後、在宅医療の充実に向けて、ドクターへの働きかけとともに、ご家族の方への働きかけとニーズの掘り起こしを積極的に取組みたい。

誰しも、いつかは迎える最期を在宅で満足して過ごすためには、元気なうちから、口から食べることを意識していくことも大切で、従来の歯科保健で足りなかった口腔ケアと食支援についてさらに研究をしていきたい。